

Title	F社新製品開発におけるリードタイム短期化への考察
Sub Title	
Author	戸田雅裕(Toda, Masahiro) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1107号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

戸田 雅裕

主査 河野 宏和

(富士ゼロックス株式会社)

副査 小野桂之介

古川 公成

所属

河野 宏和 研究室

F社新製品開発におけるリードタイム短期化への考察

日本の製造企業にとって、現状の厳しい市場環境の中で成長していくためには、市場を刺激し、顧客が真に要求する高品質な製品をタイミング良く、効果的に開発し供給していかなければならない。一方複写機メーカーF社にとっても、上記のような要件に加えて、ビジネスサイクルのスピードアップによる資産の有効活用や、将来的な多角化に向けての基盤整備を図るためにも、開発リードタイムを短期化していくことが全社的な必須条件となっている。

本研究の目的は、F社における新製品開発の問題点・課題などを調査することにより、F社に対して、製品開発リードタイムを短期化するための具体的提言を行うことである。本研究では、調査研究方法として、新製品開発に関与するキーマンへのインタビュー、社内資料分析、文献研究などによって、1) 新製品開発の概要調査、2) 詳細な問題点の調査、3) 問題の整理・相関関係の分析、4) 特定機種での事例研究を行っている。

これらの研究調査を通じて、F社の新意識を確認している。これらの研究調査を通じて、F社の新を確認している。これらの研究調査を通じて、F社の新製品開発には多くの問題点が錯綜しており、短期的な解決策によって開発リードタイムを劇的に短期化する方法はないことが明らかになった。そこで、施策スケジュールを段階的に分けて実施していくことの必要性を提言している。すなわち、初期の施策によってインフラ整備や整備を中心とする環境整備を強化することにより、現状の開発プロセスに内在している悪循環を断ち切り、最終的には、コンカレント・エンジニアリングなどの長期的な施策に移行していくという考え方である。さらに、短期から長期までの具体的な施策を提示し、それぞれの効果とリスクについて評価を行っている。また、開発リードタイムを短期化するために経営層が果たすべき役割の重要性についても言及している。